

① 桜丘の大昔のカキ

今から約40万年前、約2mにわたってカキ貝が堆積しています。現在では津軽半島以南の汽水域に生息するウネナシトマヤガイも拾えることから、温かい浅い入り江の海だったことがわかります。北海道内でもここだけの貴重ながけ面です。

② 本郷いこいの森（駐車場・トイレ有）

平成11年（1999年）にできた12ホールのパークゴルフ場と散策路を併設した公園です。森林浴をもでき、ゆったりとした公園です。5月1日（金）から町民のみの開放となっています。平日はスポーツセンターや図書室でクラブやボールの貸出があります。

③ 京町公園（水のみ場・トイレ有、駐車場は福祉センターや役場をご利用ください）

昭和53年（1978年）にできた厚真中心部のこども園つみきのとなりにある公園です。小さな丘のほか6月上旬には淡い紫色の綺麗な藤棚が見ごろを迎えます。

④ つたえり公園（厚真の歴史をたどる石碑公園）（駐車場有）

平成17年（2005年）にできた総合ケアセンター「ゆくり」と土地改良区の間にある公園です。名誉町民や石油採掘などの厚真の歴史を伝える11個の石碑があります。

⑤ 新町公園（駐車場・トイレ有）

昭和57年（1983年）にできた公園です。コイがいる池があり、バーベキューコーナーもあります。公園ができる前は大きな池があり、中央小学校の冬のスケート授業もここで行われていました。

⑥ 厚真の道路元標（知る人ぞ知る隠れた石碑）

大正時代に当時の厚真村の道路が整備されました。この時の起点となる石碑で、役場庁舎の興隆寺側にひっそりとたたずんでいます。今の厚真町の町道もこの小さな標柱（石碑）が起点となっています。

⑦ 環境保全林（入口に仮設トイレ有）

フォーラムビレッジの奥にある町有林で広葉樹を主体とした明るい森です。東京ドーム約60個分の広さがあり、自然に親しむ“入り口”として、全長約5kmの散策路を整備しています。

⑧ 厚真の水田発祥の地（石碑）（近くに豊かな丘駐車公園のトイレ有）

明治25年（1892年）に厚真で初めて水田をつくったのが豊丘です。ここから現在の“米どころ厚真”が始まりました。昭和51年（1976年）、厚真町80年を記念して建立されました。

⑨ 大沼野営場（フィッシングパーク）（期間中は水洗トイレ有）

キャンプは5月7日～10月31日までで、サイト使用料は町民1泊310円、日帰り160円と格安です。コイやフナの釣りは7月から開始予定です。林の中にテントを張ることができ沼に面した野性味あふれるキャンプ場として、近年、来場者数が増えています。テントを張らずに沼と林の中での日帰り散策もおすすめです。

⑩ 浜厚真野原（やげん）公園（駐車場・トイレ有）

国道沿いにある駐車公園です。海産物を中心とした売店や自動販売機もあり、となりには有料のサッカー場もあります。

⑪ JR北海道 浜厚真駅

大正2年（1913年）に「あづま」駅として開業した厚真唯一の鉄道の駅です。ちなみに今の厚真市街地は「振老（ふれおい）」と呼ばれていました。駅には一日上下線合わせて16本の普通列車が停まり、1日平均約19人の利用者がいます。現在の駅舎は昭和62年（1987年）に車掌車を改造したもので、平成27年に小学生が描いた「あつまるくん」と太平洋のサーフィンの波が描かれています。駅前には商店や郵便局があり、昭和45年（1970年）に厚真町で初めて信号機ができた場所でもあります。駅裏には浜厚真小学校、中学校がありましたが、国道切替等により現在の風景になりました。

⑫ 厚真神社と青木与八記念碑

明治12年（1879年）に厚真で初めて建てられた神社です。元々はフェリーターミナルの踏切から南東に約250mの厚真川の西岸に建てられていました。現在の場所には昭和21年に現在地へ新築移転されました。境内には厚真開拓の礎を築いた青木与八さんの記念碑が2つほど建立されています。

⑬ 北海道一のサーフィンの海岸

北海道で湘南並みに一番混雑するサーフスポットとも言われています。サーフィンが大好きで厚真町に移住してきた町民もいるほど、全国に名を知れた海岸でもあります。

⑭ 新日本海フェリーターミナル

平成11年（1999年）7月にできたフェリーターミナルで、厚真―秋田―新潟―敦賀（つるが）を結び日本海航路の定期便が就航しています。定期航路のフェリーとしては国内最大の全長224.5mが入港し、最短で約20時間で福井県敦賀市まで行けます。対岸には200mの煙突（北海道で一番）がある北海道最大の火力発電所、苫東厚真火力発電所が見えます。